

令和2年度
下水道に関する人身事故発生状況について
(令和2年7月末現在)

1. 総括
2. 維持管理作業
3. 工事

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

1.人身事故発生状況(総括)

(令和2年7月末現在)

令和2年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	7月までの集計	合計
維持管理作業	1. 死亡事故	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	2. 負傷事故	4 (1)	2 (1)	2 (1)	5 (3)	0 (1)	0 (1)	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	13 (6)	13 (36)
	合計	4 (1)	2 (1)	2 (1)	5 (3)	0 (1)	0 (1)	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (5)	0 (7)	0 (1)	13 (6)	13 (36)
	累計	4 (1)	6 (2)	8 (3)	13 (6)	13 (7)	13 (8)	13 (13)	13 (18)	13 (23)	13 (28)	13 (35)	13 (36)	-	-
工事	1. 死亡事故	2 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	3 (1)	3 (7)
	2. 負傷事故	0 (4)	4 (4)	5 (3)	0 (7)	0 (6)	0 (4)	0 (15)	0 (9)	0 (9)	0 (5)	0 (10)	0 (11)	9 (18)	9 (87)
	合計	2 (4)	5 (5)	5 (3)	0 (7)	0 (6)	0 (5)	0 (15)	0 (10)	0 (10)	0 (7)	0 (11)	0 (11)	12 (19)	12 (94)
	累計	2 (4)	7 (9)	12 (12)	12 (19)	12 (25)	12 (30)	12 (45)	12 (55)	12 (65)	12 (72)	12 (83)	12 (94)	-	-
合計	1. 死亡事故	2 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (0)	3 (1)	3 (7)
	2. 負傷事故	4 (5)	6 (5)	7 (4)	5 (10)	0 (7)	0 (5)	0 (20)	0 (14)	0 (14)	0 (10)	0 (17)	0 (12)	22 (24)	22 (123)
	合計	6 (5)	7 (6)	7 (4)	5 (10)	0 (7)	0 (6)	0 (20)	0 (15)	0 (15)	0 (12)	0 (18)	0 (12)	25 (25)	25 (130)
	累計	6 (5)	13 (11)	20 (15)	25 (25)	25 (32)	25 (38)	25 (58)	25 (73)	25 (88)	25 (100)	25 (118)	25 (130)	-	-

※下段()書きは前年度(令和元年度)の値
 ※国土交通省へ報告のあった事故について集計

2.人身事故発生状況(維持管理作業) (令和2年7月末現在)

令和2年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度 合計	
事業者主体	1. 都道府県	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	16	
	2. 政令市	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	
	3. 一般市	2	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6	12	
	4. 町村	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	
	5. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	4	2	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	13	36	
発生施設	1. 管渠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2. マンホール	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	
	3. 処理場	3	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8	22	
	4. ポンプ場	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	
	5. その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	
	合計	4	2	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	13	36	
事故類型	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	1. 墜落・転落	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2. はさまれ・巻き込まれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	12. 公衆災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	14. その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	負傷事故	4	2	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	36
	1. 墜落・転落	1	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	11
	2. はさまれ・巻き込まれ	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8
	3. 飛来・落下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	5. 転倒	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	6. 激突	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	7. 土砂崩壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	9. 感電	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	12. 公衆災害	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	14. その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9
合計	4	2	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	36	
被災者数(人)	1. 自治体職員	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	
	2. 委託先業者	3	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	9	33	
	3. 第三者	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	合計(人)	4	2	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	13	36	
累計	4	6	8	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	-	-	

令和元年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 自治体職員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	2. 委託先業者	1	1	1	3	1	1	4	4	5	5	6	1	33
	3. 第三者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	合計(人)	1	1	1	3	1	1	5	5	5	5	7	1	36
	累計	1	2	3	6	7	8	13	18	23	28	35	36	-

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

人身事故情報データベース(維持管理作業)

令和2年7月末現在

NO.	発生日月	事故情報			事故概要・発生防止策		被災者				
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	再発防止策等	被災者	年齢	性別	被害状況	
7月											
1	R2.7.10	3. 一般市	処理場	①負傷事故	②はさまれ・巻き込まれ	棟内の送風機へのグリス給脂作業中、電源スイッチを切った後、緩やかに回転していたVベルトを手で止めようとした際に、駆動プーリーとVベルトに右手小指が挟まれた。	給気ファンフィルターの目詰まりにより、電源スイッチを切った後にVベルトが完全に停止しないことが原因の1つにあったため、ファンの清掃を実施。また、委託業者を含む安全マニュアルの再確認を実施。	委託先業者	53	男	右小指伸筋腱断裂、両側副韧带断裂
2	R2.7.10	3. 一般市	処理場	①負傷事故	⑨感電	処理場の旧館電気室にある三相変圧器の二次側負荷電流測定のため、キュービクル裏面扉を開放し、その内側にビス止めされている金属製パネルを外した際、誤って同変圧器2次側の配線用遮断器負荷側銅バー端子部へ金属製パネルを接触させたことにより、キュービクルフレーム間で地絡しアークが発生し、負傷した。	・充電中のキュービクル内には身体を入れない。 ・充電中のキュービクル内には身体を入れない。ただし、接地線の漏洩電流測定等の場合にあつては、高圧の危険距離以内に接近しない範囲で手、腕までの身体の一部をキュービクル内に入れることができる。 ・全職員が本事故の重大性の認識を共有し、今後同様の事故を発生させないために、保安業務従事者全員参加による事故検討会を実施する。等	委託先業者	43	男	左上肢、頸部、顔面、胸部第2度熱傷
3	R2.7.21	2. 政令市	ポンプ場	①負傷事故	①墜落・転落	被災職員は高架水槽上部に上がり、同点検歩廊部分にいる職員とともに、水槽清掃用の資材の引き上げ作業を行っていた。その後、休憩を取るよう本人に直接声をかけたが、下へ降りてこなかったため、再度下から休憩を取るよう声掛けを行った。しかし返事がなく、それから間もなく大きな衝撃音があり、被災職員が転落しているのを発見した。 被災職員はヘルメット、半長靴、ビニル手袋、マスクを着用。墜落制止用器具は使用していなかった。	検討中	自治体職員	41	男	左肩甲骨骨折、左肩脱臼、鼻骨骨折、顔面裂傷、歯牙破折
4	R2.7.28	3. 一般市	その他	①負傷事故	①墜落・転落	貯留施設の内部を清掃作業中、高圧洗浄車の操作を行っていた作業員が、開口部付近の作業状況や放水口に付属するコックの状態を確認せず、高圧洗浄車の運転を開始したところ、洗浄水が噴き出し、その洗浄水を避けようとした被災者が誤って開口部に転落し、負傷した。	・外部講習の受講を検討する等、社内教育を見直し、安全管理の徹底を図るよう指示。 ・業務計画書の作業手順及び安全管理に関する項目について、見直しを行い、再発防止策を踏まえた計画書を8月7日までに提出するよう指示。(その間の作業は休止中。)	委託先業者	68	男	肋骨・左腰骨骨折
5	R2.7.28	1. 都道府県	マンホール	①負傷事故	⑫公衆災害	マンホールの浮き上がりが原因と思われる車両の横転事故により、当該車両の運転手が負傷した。	原因究明後に検討	第三者	不明	男	打撲

3.事故発生状況(工事) (令和2年7月末現在)

令和2年度

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度 合計
事業者主体	1. 都道府県	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	13
	2. 政令市	3	5	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	13	36
	3. 一般市	1	3	7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	15	55
	4. 町村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	5. その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	合計	4	10	8	11	0	0	0	0	0	0	0	0	33	111
工事分類	1. 管きょ開削	2	6	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	21	59
	2. 管きょ推進	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	8
	3. 管きょシールド	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9
	4. 管きょその他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5
	5. 処ボ土木建築	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	19
	6. 処ボ機械電気	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	7. 処ボその他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	合計	4	10	8	11	0	0	0	0	0	0	0	0	33	111
事故類型	1. 墜落・転落	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	21
	2. はさまれ・巻き込まれ	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	29
	3. 飛来・落下	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8
	4. 切れ・こすれ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	5. 転倒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	6. 激突	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5
	7. 土砂崩壊	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8
	8. 交通事故	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	9. 感電	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10. おぼれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11. 火災・爆発	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	12-1. 公衆災害(人身)	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	11
	12-2. 公衆災害(物損)	2	5	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	12	17
	13. 作業車両の横転	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14. その他	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
合計	4	10	8	11	0	0	0	0	0	0	0	0	33	111	
被災者数(人)	1. 死亡	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	7
	2. 重傷	0	4	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	14	67
	3. 軽傷	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	26
	合計(人)	2	8	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	23	100
累計	2	10	15	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	-	-
その他(民間発注工事など)															
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

令和1年度

(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
被災者数(人)	1. 死亡	0	1	0	0	0	1	0	1	1	2	1	0	7
	2. 重傷	1	2	2	4	6	4	13	8	4	5	8	10	67
	3. 軽傷	3	2	1	6	0	0	3	1	5	0	3	2	26
	合計(人)	4	5	3	10	6	5	16	10	10	7	12	12	100
累計	4	9	12	22	28	33	49	59	69	76	88	100	-	
その他(民間発注工事など)														
	1. 死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	2. 負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

事故情報データベース(工事)

令和2年7月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			被災者					
		事業主体	工事分類	従事作業	発生場所	事故概要	事故類型	年齢	性別	被害状況
7月										
1	R2.7.1	2.政令市	2.管きょ推進	2次歯止め設置	現場内	推進工事において、フォークリフトでヒューム管(Φ1100mm)移動作業中、1次歯止めの手前に降ろすべきところを誤って真上に降ろしたため管が転がり、2次歯止めを設置しようとしていた被災者が、移動済のヒューム管と転がってきた管との間に挟まれた。	2.はさまれ・巻き込まれ	27	男	骨盤骨折
2	R2.7.7	2.政令市	1.管きょ開削	-	現場内	約1週間前に本管撤去時のため開削し土を埋め戻した箇所、路面下がり(直径40cm、深さ12cm)が発生し、一般の通行車両1台が損傷(タイヤパンク)。	12-2.公衆災害(物損)			普通乗用車物損1台(タイヤパンク)
3	R2.7.8	2.政令市	1.管きょ開削	-	現場内	新設管と既設管を仮接続していた管が、降雨(13.5mm/10min)により外れ、そこに管周辺の土砂が流入したことで道路に空洞が発生。その上を通行した一般車両2台が損傷。	12-2.公衆災害(物損)			床下損傷(自走可能) 右前輪パンク及びシャフト損傷(自走不可)
4	R2.7.15	1.都道府県	5.処ポ土木建築	コンクリートはつり	現場内	消化タンク内に設置した足場上で、ウォータージェットによるコンクリート劣化部除去作業を行っていた。作業開始のためジェットガンの噴射装置を握ったところ、高圧による反動で片方の手がジェットガンから離れ、高圧水が作業員の左腕上部へ当たり裂傷を負った。	4.切れ・こすれ	39	男	左上腕挫創、汚染創
5	R2.7.17	2.政令市	1.管きょ開削	-	現場内	ビット交換に伴う地盤改良(薬液注入工)において、歩道を横断していた給水ホースのプロテクターに自転車がつまづいて転倒し、通行者が負傷した。	12-1.公衆災害(人身)	36	男	右肘中頭部骨折
6	R2.7.18	5.その他	1.管きょ開削	埋戻し	現場内	管路掘削作業中、使用後の建込簡易土留を移動するため重機で吊り上げたところ土留が回転し、近くで作業していた作業員に接触し被害した。	6.激突	74	女	大腿骨複雑骨折
7	R2.7.23	3.一般市	1.管きょ開削	交通誘導	現場内	埋め戻し作業中、交通誘導員(重機誘導)が一般車両の誘導のために移動したところ、移動先が重機の死角となる位置であったため、バック中の重機と接触し、交通誘導員が転倒後重機に踏まれて負傷した。	6.激突	50	男	左足首骨折
8	R2.7.23	3.一般市	1.管きょ開削	重機誘導	現場内	マンホール埋戻しに際し、4tダンプのバック誘導のため作業重機バックホウから降り、運転手に停止を合図した。その後、マンホール受枠を下ろすため4tダンプの後ろに回ったところ、4tダンプがゆっくりバックしてきてバックホウの排土板と4tダンプに左足を挟まれて負傷した。	2.はさまれ・巻き込まれ	31	男	左足大腿部骨折
9	R2.7.29	3.一般市	1.管きょ開削	-	現場内	市道に布設している公共下水道管(DCIPφ150mm)の劣化及び腐食度調査を行うための試験調査中、作業員が作業ヤード外の仮歩道内から現場を確認していたところ、後方から来た自転車と作業員が接触して、自転車の運転者が負傷した。なお、作業員にけがはない。	12-1.公衆災害(人身)	70	女	顔面左側頬骨のひび、左手の擦り傷
10	R2.7.31	3.一般市	2.管きょ推進	-	現場隣接道路	鋼矢板の試験打ち後、矢板を引抜いて下ろそうとしたところ矢板を吊ったラフテレーンクレーン車がバランスを崩して前方に転倒し、前方道路を走行中のトラックに直撃したことによりトラック運転手(第三者)が死亡した。なお、クレーン車運転手にけがはない。	12-1.公衆災害(人身)	41	男	死亡
11	R2.7.31	1.都道府県	1.管きょ開削	-	現場内	現道下に流域下水道の幹線管渠を敷設(増設)する工事において、仮設の矢板を施工していたところ、既設圧送管を損傷させた。	14.その他			路面及び海洋への汚水流出

令和2年度
下水道に関する水質事故等発生状況について
(令和2年7月末現在)

国土交通省 水管理・国土保全局
下水道部

水質事故等発生状況

(令和2年7月末現在)

[総括]

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水質事故等 合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	21 (41)
累計	9 (1)	12 (3)	18 (6)	21 (11)	21 (18)	21 (19)	21 (24)	21 (30)	21 (33)	21 (34)	21 (40)	21 (41)	- -

[内訳]

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
事業主体	1. 都道府県	2 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (3)	0 (0)	3 (10)	
	2. 政令市	1 (0)	0 (1)	0 (1)	2 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (4)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	3 (12)	
	3. 一般市	6 (0)	2 (1)	4 (1)	1 (2)	0 (4)	0 (0)	0 (3)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	13 (17)	
	4. 町村	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)
	5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	21 (41)
発生施設	1. 管渠	5 (0)	1 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (2)	9 (11)	
	2. マンホール	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (4)	
	3. 処理場	3 (1)	2 (1)	1 (0)	0 (2)	0 (2)	0 (1)	0 (2)	0 (3)	0 (0)	0 (1)	0 (3)	6 (17)	
	4. ポンプ場	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	
	5. その他	1 (0)	0 (1)	2 (0)	1 (1)	0 (3)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	4 (9)
	合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	21 (41)
原因者	1. 下水道管理者(委託先含む)	3 (1)	3 (1)	5 (2)	2 (1)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	13 (15)
	2. 民間事業者(一般人を含む)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (3)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	2 (11)
	3. その他(天災、原因者不明含む)	4 (0)	0 (1)	1 (1)	1 (3)	0 (3)	0 (0)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	6 (15)
	合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	21 (41)
事故類型	① 悪質下水の流入(放流水質が基準に不適合)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (2)
	② 悪質下水の流入(放流水質が基準に適合)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2)	
	③ 悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	4 (3)
	④ 雨水管からの悪質下水の流出	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (4)
	⑤ 下水道施設からの下水等の流出	5 (0)	1 (1)	2 (2)	2 (1)	0 (3)	0 (1)	0 (1)	0 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	10 (15)
	⑥ その他事故(①～⑤以外の事故)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (3)	0 (1)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (11)
	水質事故 合計	9 (0)	2 (2)	4 (3)	2 (5)	0 (6)	0 (1)	0 (5)	0 (4)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	17 (37)
その他案件	0 (1)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	
水質事故等 合計	9 (1)	3 (2)	6 (3)	3 (5)	0 (7)	0 (1)	0 (5)	0 (6)	0 (3)	0 (1)	0 (6)	0 (1)	21 (41)	
状況分類	① 耐用年数経過	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (5)
	② 耐用年数以内	0 (0)	1 (2)	1 (0)	2 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	4 (10)
	③ 天災等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合計	0 (0)	2 (2)	1 (1)	2 (3)	0 (2)	0 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (0)	5 (15)

※状況分類については水質事故等において、事故発生原因が下水道施設の損傷または、設備の故障によるものを集計

※()内書きは、前年度(令和元年度)の値

※国土交通省へ報告のあった事故について集計

水質事故等情報データベース

令和2年7月末現在

NO.	発生年月日	事故情報			事故概要・対応	
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	事故への対応
7月						
1	R2.7.6	2. 政令市	ポンプ場	その他案件	—	<p>雨水ポンプ運転中に放流ゲートが突然閉まり、雨水を排水できなくなったことで雨水吐出井の内圧が高まり、躯体が破損し、沈砂池室へ雨水が流入した。放流ゲートが閉まった原因として放流ゲートの制御部である運転制御プログラム用コントローラ又はスイッチ入出力制御装置の誤作動によるものと推測される。</p> <p>雨水ポンプ及び汚水ポンプ全台、通常運転可能なことを確認。ただし、雨水吐出井破損部から漏水があるため、極力ポンプを運転しないよう運用することで対応。 一連の制御システムについては、令和4年度から改築工事に着手する予定であったが、当該事故を受け、着手時期の前倒しを行うなどの対応を引き続き検討。</p>
2	R2.7.8	3. 一般市	その他	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	<p>豪雨による雨水の侵入により、公共汚水柵から汚水等が溢水した。</p> <p>市街地でのいっ水を防ぐために、バキューム車により侵入水を送った。</p>
3	R2.7.14	2. 政令市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	<p>圧送管の取付け部材の腐食により管に穴があき、河川へ汚水が流出した。</p> <p>圧送管からの漏水を確認したため、ポンプ場からの圧送を一時停止し、その後、漏水が最小限となるようポンプ運転を調整した。 圧送管の仮復旧のため、管に補修金具を設置し、漏水が解消した。</p>